

チリメンモンスター探し & チリモンアート作り

海洋生産技術担当 守岡 佐保
南部総合県民局水産振興担当 和田 隆史

Keyword ; チリモンアート, チリメンモンスター, チリモン, 寒天標本, パッチ網, チリメン, シラス

「チリメンモンスターとは？」

「チリメンモンスター」とは何かご存じでしょうか？

チリメンモンスター(以下「チリモン」)とは、チリメンジャコに混じっている写真 1 のようなイカ、タコ、カニなどシラス(イワシ類等の稚仔魚)以外の生物を指し、「モンスター」の由来はその姿形の奇抜さから来ているそうです。名付け親である「きしわだ自然資料館」と「きしわだ自然友の会」が、チリメンジャコから小さな生物をより分ける遊びを 2004 年に実習として始めました。今やテレビや新聞で何度も紹介され、人気の高まっている「チリモン」遊びを徳島県でも実施しましたので、その模様をご紹介します。



写真 1 徳島県沿岸で漁獲されたチリメンとチリメンモンスター。スケール 1 目盛りは 1mm を示す。

徳島県での初イベント

2009年10月31日～11月1日に海部郡海陽町にある「まぜのおかオートキャンプ場」で「南阿波アウトドアフェス with 野田知佑」というイベントが開催されました。まぜのおかオートキャンプ場と南部総合県民局が共催するこのイベントで、「チリメンモンスター探し」ブースを出展することになり、水産研究所もそのお手伝いに行ってきました。

私たちにとって今回が初めての「チリモン探し」出展だったため、試行錯誤しながら準備を行いました。「チリモン博物誌」や「チリメンモンスターをさがせ！」という本およびチリモンについてのホームページを参考に、まず必要な道具を集め、次に遊び方を考えました。本などで紹介されているように、チリメンジャコからチリモンをより分けてカードの上に並べるだけで十分楽しいのですが、お気に入りのチリモンの持ち帰り方を工夫できないか？という話になりました。そこで、寒天を使って標本を作ることになりました。小瓶に溶かした寒天を入れ、その中にお気に入りのチリモンを配置すると、立体的に観察できます。さらに、貝殻や海藻などを配置することでちょっとしたアート作品として楽しめます（「チリモンアート」と名付けました。写真2）。このように、今回はチリモン探しと標本作りのセットで遊んでいただくことにしました。



写真2 チリモンアートの例

当日は、予想以上にたくさんのお客さんに喜んでいただくことができました。

参加者にはチリモン用のチリメンジャコ、トレー、ピンセットと特製のチリモン選別下敷きを配布し、「最初にチリメンジャコからチリモンを選んで、下敷きの写真の上に並べてください。ひととおり分け終わったら、標本作りの瓶を渡すので、声をかけてください。」と手順を説明しました。そこから皆さん和気あいあいだったり、真剣勝負だったりそれぞれのチリモン探しが始まりました（写真3）。一番人気のタツノオトシゴを見つけるのは難しいのですが、幸運な方々数名が見つけられました。「イカばっかり！」と嘆くお子さんに「よく見たらいろいろいるよ。」と声をかけると、カワハギやフグ類、ヨウジウオのような個性派から、イソギンポとシロギスのようにシラスと見まちがいやすい魚、シャコ

の幼生のような見慣れない生物などを見つけ出して、次々に下敷きの上に並べることができるようになりました。



写真3 チリメンモンスター探しの風景



写真4 標本作りの風景

一通り分け終わると、次は寒天標本の作成です(写真4)。今回は飾り用の貝殻や海藻(テングサ)を用意し、ただの標本ではなく、ちょっとしたアート作品を作る気持ちで取り組んでいただきました。寒天、塩はご家庭で材料が簡単に手に入りますし、触れても安全です。ご自宅でも楽しめる方法を提案しようと南部総合県民局の和田隆史技術主任が中心となって、今回の手法を開発しました(詳細な作り方は巻末に掲載しました)。試行錯誤の結果、この方法によると、透明で中身がよく見え、さらに約1ヶ月間は防腐効果を得られることが確認できました(写真2)。

初の試みだったため「楽しんでいただけるかな?」と少し不安でしたが、思い思いの作品を熱中して作るお客さんの様子を見てみると、この標本作りにはチリモン探しとは別の楽しさがあるように感じました。

チリモン遊びから考えること

今回のイベントで、「混じりの多いチリメンジャコはどこで買えるんですか?」という質問を何回か受けました。「また家でもやってみたいけど、スーパーにはこんなチリメンジャコ置いてない。」という声もありました。

ここで簡単にチリメンジャコを獲る漁法を紹介します。チリメンジャコの原料となるシラスは、図1のように1隻の探索兼運搬船(通称「ジャッカー」)と2隻の網船を用いる「機船船びき網漁業」という漁法で漁獲されています。

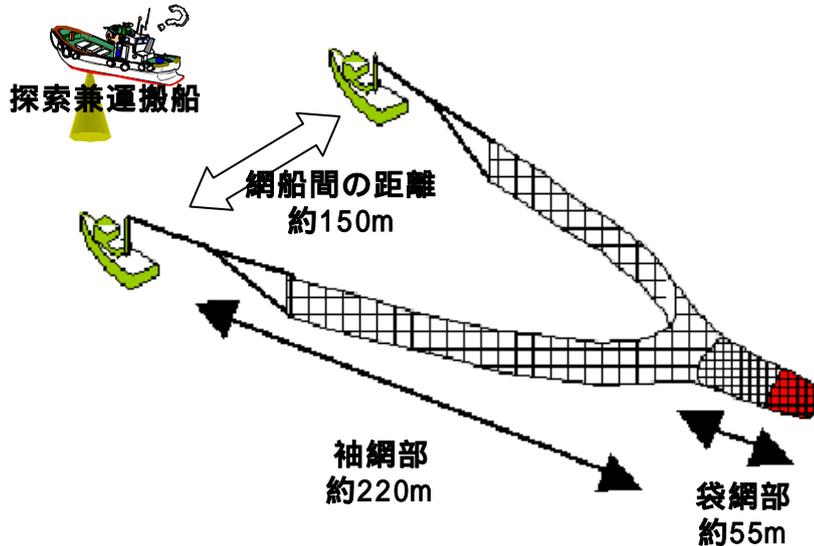


図1 機船船びき網漁業の概要



写真5 シラス水揚げ作業風景

2隻の網船で曳く網は、その形状から、通称「パッチ網」と呼ばれています(男性用下着の「ももひき」のことを「パッチ」と呼びます。)。その網は、大きく分けると袖網と呼ばれる大きい網目の部分と細かい網目の袋網で構成されており、袋網の先端は約 2mmと細かくなっています。水揚げの際は、袋網の先端部分に集まった魚をジャッカーに移します(写真5)。漁獲時にシラス以外の混じり物を除くため、袋網の手前に「前網」という網が付いていて(図2)、袋網の手前で大きいサイズの魚などが袋網に入らないようにしています。今回用意したチリメンジャコは、加工業者と漁業者の方において、このイベント用に前網の漁獲物と袋網の漁獲物を混ぜていただいたものなので、確かにスーパーで売られているチリメンジャコとは様子が違います。

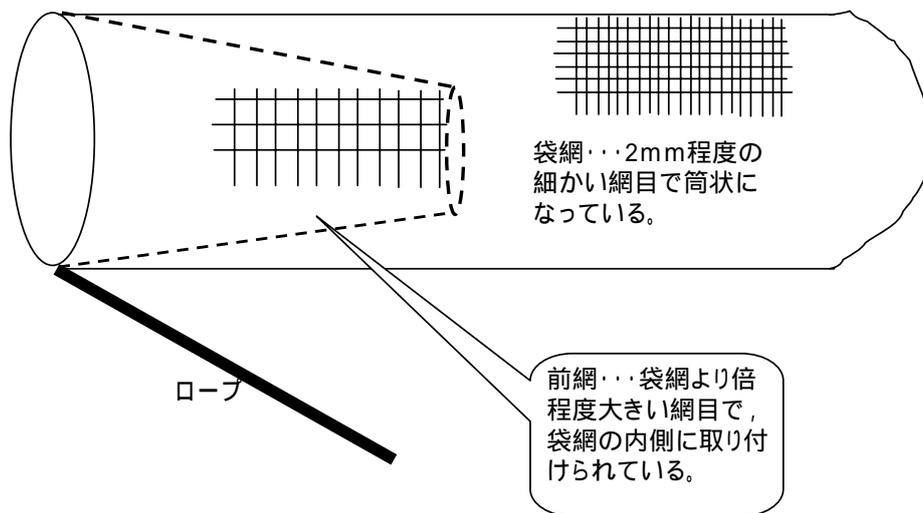


図2 袋網の概要

流通業者の方々には、サイズが揃っていて、混じり物が少ないチリメンを高く評価します。そのため、漁獲時に上記のような網の工夫によるシラス以外の生物除去が、さらに加工時に風選別機や目視による異物除去が行われています。「子供の頃はもっとタコやカニが入っていた気がするのに、最近では少ない。」というのは、異物除去の取組の賜と思われる。

テレビで初めて「チリメンモンスター」が紹介されているのを見たとき、異物扱いされることの多いチリメンジャコの混じり物を肯定的に捉えているのが面白いと思いました。

前述の「こんなチリメン入りのチリメンジャコをどこで買えるの?」という質問をされたお客さんにとって、「チリメンジャコの混じりは、必ずしも異物ではなく、シラスと同じ海で生産を支える重要な生物である。」というプラスの存在に変わっているように感じます。

一方、チリメンジャコを販売されている漁協の職員さんのお話では、「チリメン人気で混じり入りの販売について問い合わせが最近増えたが、やはり「混じりのできるだけ少ないものを」というニーズの方が断然強い。」とのこと。チリメンジャコ自体は、子供から老人までを対象に、家庭から給食や外食産業まで幅広く使われる食材です。幼児に食べさせる場合、口の中に刺さるような固い生物は危険ですから、異物の多いチリメンは望ましくありません。また、給食で使う場合はアレルギーなどを考慮し、できるだけ小型の甲殻類を除去したチリメンが必要とされます。

「チリメン博物誌」の「チリメン誕生秘話」に、混じりものがたくさん入ったチリメンジャコの入手に苦労し、40社あまりの加工業者さんに頼んだものの「商品イメージをダウンさせる」と怒られるなどのエピソードが紹介されています。

シラスと同じ海の中に暮らしているのに、「チリメン」に加工された途端、嫌われたり、はたまた面白がられたりと最近扱いがさまざまなチリメン達。両方の側面を見ている私たちとしては、チリメンの環境を理解した上で、「混じっている方が楽しい。」と言う人にはチリメン用を、小さなお子さん

や年配の方がおられるご家庭には十分に選別され混じりの無いチリメンをと、用途に応じて選んで買えるような体制になるのが理想だと思います。

そうはいつでも、チリモン遊びが楽しいことに間違いはありません。皆さんも機会があれば是非チャレンジ下さい。

参考資料

著者:きしわだ自然友の会(2009)チリモン博物誌・幻戯書房

監修:きしわだ自然資料館・きしわだ自然友の会・日下部敬之(大阪府環境農林水産研究所)
(2009)チリメンモンスターをさがせ!・偕成社

きしわだ自然友の会 HP チリメンモンスター ontheweb.

(<http://k-tomo.web.infoseek.co.jp/chirimon/chirimon.swf.htm>)

守岡佐保(2005)平成 16 年度パッチ網並行操業試験結果とチリメン評価項目について・徳島水研だより 55 号 (http://www.green.pref.tokushima.jp/suisan/s_dayori/55/55sdayori.html#item1)

～寒天標本(チリモンアート)の作り方～

【用意するもの】

- ・寒天水作成用具(鍋,お玉,野外的場合はカセットコンロ)
- ・15%食塩入り0.25%寒天水(水,食塩,市販の粉寒天)
参考:2Lの分量:水 1,700cc,食塩 300g,粉寒天 5g
- ・ガラス製のサンプル小瓶
- ・エタノール(濃度 70%以上)
- ・スポイト(エタノール注入時に使用)
- ・ピンセット
- ・標本冷却用具(バット,氷水)
- ・飾り用小物(貝殻,小石,海藻(さらす前の乾燥天草など)等)

【作り方】

- 1.鍋に分量の水,食塩,粉寒天を入れ,火にかけて沸騰させ,お玉でよくかき混ぜながら食塩と粉寒天を完全に溶かし,15%食塩濃度の 0.25%程度の寒天水を作る。作った食塩入り寒天水はふたをしておく。冷えすぎると固まるので,適当に火をかけ溶かしておく。
- 2.サンプル瓶を用意し,バット等に飾り用小物を並べる。
- 3.サンプル瓶に溶かした寒天水をお玉等で8割程度入れ,氷水であら熱をとる(50 程度がベター。)。
- 4.寒天水の入ったサンプル瓶に先に飾り用小物を適量入れる。ピンセットを使うと綺麗に出来る。
- 5.飾り用小物を入れ終わったら,選り分けて気に入ったチリモンをピンセットを使って入れていく。このとき,寒天がある程度固まってきている状態がベスト。チリモンが泳いでいるように配置するのが綺麗に見えるコツ。あまり入れすぎない方が見た目も良い。
- 6.入れ終わったらサンプル瓶にすり切れいっばいまでアルコールをスポイトで滴下し,ふたをして氷水で冷却する。寒天水が固まったらサンプル瓶を取り出し,水を拭き取って完成。